

報 告

移乗機器SIG講習会

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター 木附沢 一茂

私は今年度からいわてリハビリテーションセンターで作業療法士の1年目として勤務しています。普段の診療などで移乗動作の介助を行う機会がありますが、トランスファーボードなどの移乗機器の有効な使用方法を充分には理解しておりませんでした。そこで今回、自身の移乗介助の技術向上と移乗機器の使用方法を学ぶため8月25日に開催された「移乗機器SIG講習会」に参加させていただきました。

今回の講習会の参加人数は10人と大人数ではなかったために、実技演習では移乗機器を使用した移乗動作の介助方法をじっくり学ぶことができました。講師を務めていた移乗機器SIG代表の古田恒輔教授をはじめとしたスタッフのみなさまはとても優しくそして熱心に指導してくださいました。

今回の講習会ではまず、「生活支援・介護技術の見直しを視野に入れた腰痛予防を前提とした移乗用具導入の考え方」というタイトルで講義を受けました。社会福祉、施設をはじめとする健康衛生業での腰痛の現状、その中で移乗動作がどれだけ介護職員の負担となっているか、それに対しての移乗機器の導入率が低いかということを知ることができました。

また、講義の中で、古田恒輔教授は、「患者にとって移乗動作は1日に何度も行う日課であり、1年間で何千回も行う事になる。療法士が教えた動作でその数千回のうち1回でも転倒してしまったらその療法士に責任があるものだ。」とおっしゃっていました。それだけ患者にとって移乗動作は身近で重要な動作

であり、療法士にとって熱心に取り組みなくてはならない課題であることを認識しました。療法士も様々な移乗機器と移乗技術を学び、目の前の対象者と家族に合った移乗機器や移乗方法を提供することができれば療法士としての役割がより大きいものになるのではないかと感じました。

実技では、トランスファーボードとスライディングシートについて、いくつかの状況を設定し、その状況に合わせた使用方法を体験させていただきました。トランスファーボードは私の職場にも設置されており、使う機会はありましたが普段の移乗方法以外にも複数の方法を知ることができたほか、対象者役で介助を模擬的に受けることでどのように介助されたら安楽なのか、また不快なのかを身をもって体験することができました。また、対象者がトランスファーボードを使用して移乗する際にも頭部の位置や体幹の傾きなどにコツが必要であることを知ることができました。スライディングシートでは、ベッド上の対象者を上下・左右に移動させる方法を学びました。どちらの機器も正確に介助を行うにはポイントを抑える必要がありますが、使いこなすことができれば介助者も対象者も互いに安楽な移乗動作を行えることが出来ることを教えていただきました。

今回の講習会では、移乗機器を用いることは対象者にとっても介助者にとっても安楽な移乗を可能にするものであること、そのためには介助者は機器の使用方法やその特性を理解していることが必要であることを学びました。

今回の講習会で学んだ技術を、これからの診療で活用し、対象者と自身にとってより安楽な移乗動作の介助を実践してだけでなく、対象者やその家族への指導を行う際に今回得た知識を生かしていきたいと思えます。

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター
〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 16-243